

この前、テレビから「22世紀」という言葉が聞こえてきた。私はこの言葉に反応した。今年は2020年である。22世紀までには、まだ80年もある。現時点ではっきりしているのは、私が22世紀の世の中に存在していることはないくらいである。

西暦2000年を迎えるときには、それなりにワクワクしたものである。ミレニアムという言葉もあった。いまだにあの頃の記憶が残っている。あれから20年である。この間、日本を含め世界では様々なことがあった。いやありすぎた。世界人口は、私の中では50億、60億とインプットされていたが、調べてみたら77億人だった。先進国では少子化、人口減少という話題があるが、世界的には人口は増え続けている。これには食糧問題が伴う。

今の高校生の中には、22世紀を迎えることになる人もいるに違いない。いったいどんな世の中になっているのだろうか。まるで想像がつかない。日本という国は維持されているのだろうか。福島県という行政区分は存在しているのだろうか。世界規模の戦争は70年以上起きていない。歴史年表を見てみるとよくわかるが、人類の歴史とは戦争の歴史でもある。このまま150年以上もの間、世界規模の戦争が起こらずにいけるのだろうか。民族、人種、宗教など、昔から紛争の火種が消えたことはない。

この1年を、21世紀の100年のうちの1年と見るとどうだろう。後でどんな位置づけがされるだろうか。オリンピック、パラリンピックが延期された年というだけでも十分である。これからさらに何かが起こるかもしれない。予測不能かつ不透明な混迷の時代である。

高校生の皆さんは、この1年を人生80年のうちの1年とは見ることはできないであろう。では、今までの16年間、17年間のうちの1年として見た場合はどうだろう。今までに比べてどのくらい充実していただろうか。あるいは、どのくらいの後悔が残っているだろうか。中学校時代と比べてどうだろう。全く悔いが残らないというのはかなり難しい。人は多少の悔いを残しながらも前に進んでいく。

個人差はあるかもしれないが、今が充実していれば、過去のことをあれこれと悔やむことは減る。それが、今がうまくいっていないと昔のことまで後悔し始める。今が輝いていれば、昔のことなど思い出さない。常に前を向いているため後ろを振り向いたりもしない。ところが、ちょっとしたことがあると、昔の自分が蘇ってくることもある。そして、ああすればよかった、こうなっていたらなあなどと考えてしまう。

当たり前のことだが、過去は変えられないが、未来は変えられる。また、人生に無駄なことは何もない。一見、無駄なようなこと、遠回りのようなことでも決して無駄ではない。後になって役立ってくることもある。

そうであれば、前を向こうではないか。22世紀に向かって、人生80年に向かって、残された高校生活に向かって、4月からの新しい生活に向かって。きっと、“この1年”の効果が表れてくるはずである。

1月11日からスタートした「校長室だより～燦燦～」も本日で88号を数えることとなった。次年度は、4月8日（水）梁川高校始業式の日から再開する予定である。この1年、各方面の様々な方からのご支援のもと、梁川高校の教育活動を展開することができた。紙面を借りて感謝したい。

福島県立梁川高等学校は令和2年度、1年生27名、2年生28名、3年生36名、全校生91名で101年目の新たなスタートを切る。